2019 年度ＧＴセミナー
職域別見守る保育セミナー①
2019.10.7 ～10.8

第１３８号　２０１９年１０月２１日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

職域別見守る保育セミナー

2019年１０月７日～８日に職域別見守る保育セミナーが東京都中央区のコングレスクエア日本橋にて開催しました。

全国から 80 名程の先生方が集まり藤森代表の講演や新宿区高田馬場にイタリアンレストランのお店を構えるカーポラヴォーロの鳥海シェフをお招きし「オーガニックや食材」をテーマにご講演して頂きました。

また、職域別見守るセミナーの醍醐味でもある職種ごとのグループディスカッション等、２日間に渡り研修を行いました。

1 日目　2019 年 10 月 7 日（月）

10：00～　園見学
13：45～　講演①　ギビングツリー 藤森代表
15：15～　休憩
15：30～　講演②　カーポラヴォーロ シェフ鳥海様
17：15～　意見交換会

2 日目　2019 年 10 月 8 日（火）

9：00～　グループディスカッション
12：00～　昼食
13：00～　グループ発表
14：30～　まとめ

職域別見守る保育セミナー　基調講演　「人類の子育て―シティズンシップ―」

保育環境研究所ギビングツリー代表　藤森平司氏（新宿せいが子ども園　園長）

―はじめに―

皆さん、こんにちは。今日見学をしてどういう感想を持ったかが分かりませんが、私たちが目指す「見守る」。その言葉だけを聞くと、どこまで見て介入するかを考えるが、まずどんな力を持っていて、どこまでできるのかを見守るのが「見守る」の見る。手を出していけないわけでも、声を掛けていけないわけでもない。だけれどよく見て、その子にとって何が必要かを見てから声を掛けましょう。質問で喧嘩をしているときどこまで見て、どこから介入していいか分からないと聞かれる。3歳の子たちがけんかをしてピーステーブルに行った。3歳で話し合いが出来ないので担任が様子を見ていたら、年長の子が「あの子たちだったら、いかなくても大丈夫だよ」ということを知っている。行くか行かないかは決まっているわけではなくて、二人の発達や関係、ケンカの度合いを見て決めることなので、どこから手を出すかを聞かれても答えられない。シンガポールでは「見守る保育」をウォッチ＆ウェイトと言って、よく見て、少し待ちましょうと訳している。手を出すか出さないか、どこまでできるかを判断することが一つだが、子ども同士の関係をさせようということです。

―人類の子育て―

そもそもの話をしたいと思う。まず私たち人類は誕生してからずっと生きてきた。これは奇跡的なことで戦争や病気、自然災害もある。ある時は半分以上なくなったこともある。村人全員が滅びたこともある。一部残った人が子孫を残してきた中で皆さんは、その先祖全て残った方にいる人たち。先祖の一人でも亡くなった方に入っていたら、皆さんはいない。皆さんは戦争や災害に残った方にいた人たち。私たちが生き延びているのは誕生して以来残っている側にいたから。私たちは持って生まれた能力がある。最近取り組まれているのが、人類から考えてみようということがある。発達心理学や児童心理学を保育士は学ぶが、最近はそこに進化発達論を学んでいる。食に対してとかの部分というのも改めて進化から考えてみようというのが大きい。私たちはどう生き延びてきたのか。どう子どもに伝えていくのかが大きな課題で、それを話したいと思う。一つは一見関係ないようだが、人類がどう進化してきたかと思われるか。私の子どもの頃は、サルから進化したと言われてきたが、私たちの先祖はサルではありません。私たちの進化は例えば、私たちはサルから順に進化して人間になってきたと思います。これは進化の図ではありません。これは実は、霊長類を並べただけと言われている。順に見ていくとホモサピエンスは私たちの先祖です。ネアンデルタール人は私たちの先祖ではない。以前は言われていたが別の種類です。本当に正しい図は一直線ではなくて、先祖が一緒で枝分かれてしている。先祖が一緒で分かれただけで、この上にあるのが進化ではない。そうすると、チンパンジーは人間と同じ祖先をもつだけ。ここで枝分かれしたのが700万年前で、どうして枝分かれしたか。これからＡＩ時代で、分かれた理由は重要で分かれた時にどうしてこうなったか。国立科学博物館にある図だが、途中で滅びている種がいる。現在、人族でいるのは私たちのホモサピエンスだけ。どうしてホモサピエンスだけがいるかと言うと、ネアンデルタール人より頭がよかったからと言われているがそうではなくて、ネアンデルタール人は力も強いし、頭もよくヨーロッパに住んでいた。ホモサピエンスは中央アフリカにしかいなかったが、ネアンデルタール人は滅びてしまい、ホモサピエンスが世界に広がっている。原人たちも滅びてしまっている。その中で私たちしか生きていない。特に恐竜も全滅しているが人族が全滅した中で、ある研究者はホモサピエンスは滅びるのではないかと言ってい

る。それは「生き延びた知恵を失い始めている」と言われている。まずどう生き延びたかというと、私たちは力がなく、頭もよくないので大きな集団を作った。社会を作って、その中で協力して助け合うことをして生き延びた。集団が大きくなると、集団の大きさに比例して脳も大きくなると言われている。集団の中にいると一人で生きていた方が気が楽。集団の中に居ると我慢しないといけないこと、ストレスやジレンマが多い。これを乗り越えるためには、脳が大きくないといけない。若い人で引きこもりや集団を嫌がっているのは、持っている脳が小さくなってきている。まず家族という集団を作り、社会を作るが、社会と家族では利益が背反することがある。ゴリラの場合は、家族は作れるが社会は作れない。チンパンジーは、社会は作れるが家族は作れない。人間だけが両立が出来るが、これは共感する力、相手の気持ちで物を考えたりできるからと言われている。まず集団を大きくすることで、脳が大きくなるのが人口減少社会になり、集団規模が小さくなってきている。そして、集団に出ることを嫌がり始めている。私の園は新宿だが、新宿の成人式の半数が外国人で、日本人の若者は集団の中に出たがらなくなってきている。食で言うと孤食と言われるが、一人で食べる方が気が楽。トイレで食べる学生が出てきている。皆で食べることがストレスになってしまう人が出てきた。孤食と言って一人で食べることと、家族みんなで食べているようで別々で食べる個食も出てきている。私の園の若い職員でも驚くことが多いのが、ＴＶを持っていない職員がいる。ネットとかで自分の好きな映画や音楽を観たり聴いたりしている。私の子どもの頃は、ＴＶが一台しか無ければ親が見ているものを仕方なく見たり、聞くことがあったが、若い人はそういうことが無いように、食も共食と言って、一家だんらんで食べていたのが気が楽だからと、一人部屋で食べることが出てきた。小学５年生で調査をした結果、１人で食べる方が楽という答えが多かった。人類の生き延びたのと逆行する。どうして生き延びたかというと、集団で協力するとか、皆でということが大方。人口が少ないだけでなく、みんなでいることに苦痛を感じ始めている。皆での見に行くよりも、今の人たちは皆ということにストレスを感じ始め、そのうち人間関係が上手くいかないと辞めてしまう。昔の引きこもりは部屋から出てこないが、今は自分の好きな時のイベントだけには出て、付き合って何かをするということが無くて全て自分。所謂ホモサピエンスの力が失い始めている。もう一つ、人類はどう生存戦略を取ったかというと、私たち人類は社会や家族を形成して、協力して生き延びて脳を大きくなった。脳が大きくなることで、道具もネアンデルタール人の方が早く使っていたが、集団が大きくないので道具が進化していかない。だんだん石器から飛び道具にホモサピエンスはなっている。今現在私たちが持っている能力は社会で学んでいく特徴です。社会の中で生きてきたことが私たちの特徴で、決して一人で生きてきたわけではない。それは二足歩行で歩くことによってメリットは両手が使える。逆にデメリットは直立で立つために身体を支える骨が湾曲する。赤ちゃんが生まれる産道が小さくなり、大きな脳を持った人を生むことが出来ない。それでどうするかというと人類は胎内で 1/4 を育てて、残りの 3/4 を生まれてから育てる。出産後の環境は重要だとわかってきた。ですから乳児保育は昔みたいにおむつを替えるとか、ミルクをあげるとかではなく、社会に出るための学びをするのだとわかってきた。それでもう一つの問題は、脳を大きくさせていきます。私が心配しているのがアレルギーで除去食の子が多い。除去すると脳に栄養が行かなくなる。昔は早くから除去した方がいいと言われてきたが、急激にアレルギーが増えたのは除去をしていたからと言われ、最近は医者と相談しながら摂取している。卵の場合は少しずつ増やして、摂取に代わっている。脳に栄養に行かなくなることが心配。優先順位の問題が看護の問題で、最近親の苦情が多いのでうちで看護師会をして分かったのは肩から上、特に頭の怪我で、看護師から見て大丈夫だろうと言っても、親からの苦情もあってすぐに頭の怪我があるとＣＴで見ると怪我が大丈夫だったらそれでいいが、ＣＴやレントゲンを浴びる方がよっぽど危ない。親もすぐいう。余計危険にさらしている。人間はもともと防ぐ力を持っていた。いいお医者さんはこれは撮らない方がいいと返してしまう医者も増えてきた。中には撮りたがる医者もいるが、保護者も医療費が無料なので大事を取って撮るが、

子どもにとっては余計に危険にさらしている。もともと持っている力を失っている。

―9ヶ月革命―

これは違うセミナーでも話すことですが、脳の刈込みというが、脳はまず急激に増やします。犬や猫は100パーセント育ててから生まれるが、出産後の環境が影響する。そこで放射能を浴びる方が危険。最近見直されているのが早産児。早く生まれてしまうと保育器に入る。胎内と違う環境になって、その後障害になる可能性が高いと言われ、最近では生まれた後も胎内と同じような環境にしようと、保育器に入るとお母さんの声が聞けないので、語り掛けると障害が減るそう。人類は生まれてから脳を大きくすることが一つの特徴。そのために脳機能を拡大させ、1歳前後の脳のピークになり、上手に減らしていく。ニューロンの数は1歳くらいがピークでだんだん減らして、赤ちゃんが自分で選択していらないものを減らしていきます。大人は子どもためとやってしまうと、その能力を減らしてしまう。早く手を出すと削ってしまうことがわかっている。それがバランスよく削ることで、刈込みというのは、脳の情報伝達が上手に刈り込むことがうまくいかないことなので、発達障害やＡＤＨＤになると言われている。多動な子は小学校に入ると対人障害や、不登校になる可能性も高くなると言われている。4、5歳で多動の子、障がいの子が多いというと実は、その原因の多くは0、1の時に大人が手を掛け過ぎている場合は、4、5歳になると障害の可能性が高くなると、最近の研究で分かり始めている。本当の生まれつきは0.5パーセントくらいと言われている。ほとんど0歳の時の過干渉が原因ではないかと言われている。もう一つの事情で、人間は出産する時期が短い。チンパンジーは死ぬまで出産できるが、人間はある年齢までしかできないし、人類はすぐには産めず死ぬ確率も高いし、二足歩行だと走るのも遅く、他の動物に捕まる可能性もある。短い時期に一杯生むためには、一杯生む方法があるが、人間は1回の出産で大体一人。毎年生むという方法を取る。人間は次の年に生まれた子を年子というが、他の霊長類ではない。次の年に産むための条件はお母さんが9ケ月くらいで離乳して、膝からおろすと次の子を産むが、お母さんに下ろされて赤ちゃんは生きていけるかというと、育児に他の人が参加しないと早く離乳できない。人間は9ケ月で離乳するということは、その頃に誰か助けがないといけない。未熟な赤ちゃんに誰が手を貸したかというと、家族で子育てをした。そして二人目を生むことが可能になる。社会で共同保育をしていく。昔は9ケ月になると共同保育されていた。大昔から集団の中で育ってきた。それが、兄弟がいっぱいいる中で育つ。現在は殆ど集団が無くて、家の中には多くは母子。兄弟で接することが少ないということは、現在は集団で赤ちゃんから保育されることはない。人類は集団で育児されてきたが、ある時産業革命が起きて、失業者が増えて、社会から女性を追い出して、男性が社会で働くようにしよう、3歳までは、お母さんの元がいいという神話を作った。人類は9ケ月で共同保育をされてきた。人類はそうではなくて、9ケ月から共同保育をされることによって、トマセロの『人はなぜ協力するか』という本の中で、9ケ月革命と言って、他者を意図を持った存在として認識する。二項関係から9ケ月を過ぎると三項関係。第三者の関係と意図して理解するようになる。そしてエモーショナルコントロールと言って、9ケ月～1歳半に我慢する力がピークになる。エモーショナルコントロールがピークを迎え、人の話を聞く力もピークを迎え、共同保育の中で身に付いていきます。それに対して、母子しかいないと、これらの脳が育たない。現在アメリカなどでは犯罪を起こした人はこの脳が育っていない。自分で感情を我慢する力が脳で育っていない若者が犯罪を犯しているので、何とかつけようとしている。私は子ども集団の中で育つことでつくと思っている。国もわかっているか分からないが、育休を伸ばそうとしているし、最終的には3歳まで取らせようとしているが、保育園の方は実感として分かると思うが、2，3歳から入ってくると大変だと思う。これが昔だったら兄弟がいて、地域の中で育っていたから3歳だけで大丈夫で、認知的なものを学ぶでよかったが、脳の機能が育っていないのに、元が育っていなく3歳から来ると

大変。それを育休を３歳まで伸ばそうとしている。これをＴＶで観ていたらドイツでも育休取れますよ、コメンテーターの方が「遅れてますよ！」というのは発言していたが間違っているところがある。ドイツが優れているのは分割して取れることが一つ。育休を３歳まで取ったからと言って保育園に入れる。０歳のうちは家庭だが１歳の誕生日を迎えると、全ての子を入園させないといけない法律が作られている。だから３歳まで取ってもいい。日本は育休中は預けられない。外国を例に出しても違う。お母さんがいいという神話が強いが、９ケ月になると集団保育をされ、様々なことを学んでいる。人類は700万年前から草原に降りると危険なことも多いが出てきて、アフリカにいたホモサピエンスは世界中に散らばった。200万年前から脳が大きくなったのは、集団を大きくしたから脳が大きくなったが、今は集団を小さくしようとしている。しかも親だけとしか接しない、保育園でも担当性で一人しか相手にしないと、人類の元々の子育てとは違う。

―子育て集団―

脳を大きくする頃に家族が生まれ、子どもを育てる集団です。遺伝子を残していくことが使命なので、子育ては色々な事に優先する。まず家族を見る集団を作る。家族の「族」は一つの誓いの元に集まった集団。家はうかんむりに豚と書くが豚を生贄にしている。その中で子育てをしています。人間は成長が遅いので、父母だけではやっていけないので集団を大きくした。複数の家族が集まった共同体で、元々共同保育が重要な役割。誰かが育児が出来ないから預けるのではなくて、元々集団の中で育つもので、親１人だけでは人類は育てていないのに、お母さん信仰が強い。様々な人同士が影響し合う。人同士顔を見合って共感して真似をする。真似も人類の特徴で、特に意図を真似すると言われているのが人類の特徴です。知識が伝授される。例えば、集団社会化理論を出したハリスがいるが、彼女は食べ物に対して甥と姪とピーマンの収穫に行った。甥が「ボクにちょうだい」と言って口に入れたら、姪っ子も「私も欲しい」と言って口に入れた。甥はその味が合わなくて、「これだしていい？」と聞いたら、姪も「私も嫌い」と言って、どんなに説得しようが一切聞かない。親がいくら好きでも関係ない。姪にとって大事なのは、お兄ちゃんが好きかどうかだけ。子どもの好き嫌いは自己防衛のためではあるが、好き嫌いの子たちをどう親が説得しようが、食べようとしない。食べさせたいなら、好きなこと食べさせるしかない。無理やり食べさせて味覚になる訳でも、栄養にもならない。それをさせるには、好きなこと一緒にさせることとハリスは言っている。親が好きだろうかよりも、友達や兄弟を食べるかの方が大きい。人類は集団の中でそういうことを学んできている。その中で私たちは集団を作って生きていくわけだが、その中で子ども同士が遊んでいたと思う。保育者がどう関わるかを学んでいるが、子どもとどう過ごしたらいいかの理論は職業になってからだと思う。昔は、子どもとどう遊んだらいいかを考えてこなかったと思う。赤ちゃんでも畦道に置いておかれた。ただ必要な時に呼べる距離にいて、必要な時は「お母さん！」と呼んで、それまでは子ども同士で遊んでいた。その中でどれを食べていいかを上の子から教わっていた。それが明治に入り保育が仕事になった。

―幼稚園の発祥―

一つは日本で言うとお茶代付属が日本の幼稚園の発祥。お茶代付属小学校が小学校に入る前のプレスクール、集団に徐々に慣れさせていきましょうと５歳児をプレスクールとして扱った。まず小学校の校舎を真似て園舎を作った。本当はこの時点でおかしな話で、皆さんは小学校指導要領を読んだことがあるか分からないが、学習指導要領を見ると、その中には学年ごと、教科ごとに到達目標が書かれている。当然、小学校は学年で構成しないといけない。それから教科ごとに決まっているため、時間割にそっていかないといけない、幼児教育は年齢ごとではなくて、卒園するまでにここまでの発達を遂げさせて、学校に送って下さいというのが決まっている。発達によって変わる。でも目安

がないと分かりづらいだろうと、８つの区分で発達区分が書かれていた。これを目安で書いたつもりだが、現場の保育士さんは到達目標として読んでしまった。それなので、３歳だからこうではなくて、２歳では排泄の自立をさせないといけないといってノルマになってしまった。一人ひとりが発達過程を遂げてということがあったので、今回の新指針の改定ではすべて発達をなくしました。ご存知だと思うが指針には目安の発達課題は書かれておらず、その代わりに卒園するまでの１０の姿が書かれた。10 の姿は領域を表しているが発達の切り口です。具体的には長崎の冊子なのですが、この姿をするまでに発達の順序や個人差があるので、４歳だからこうしましょうではなくて、その子がどういう発達をしていけるのかがあれば、年齢別にするのはおかしくなってしまう。一人ひとりの発達を見て、発達に沿った課題をしていきましょうという提案が異年齢児保育の一つ目の提案何です。異年齢児保育と聞くと発達が違う子を一緒にして同じことをさせているイメージがあって反対する人が居るが、私からすると逆に年齢別の方が違う発達の子に違うことをさせているようにしか思えません。５歳で発達が違うのに同じことをさせる方が発達を無視した集団だと思っています。同じ発達課題の子に、同じ課題をする。そうすると年度がまたがる可能性がある。もう一つは早産児。現在は出産した時の年齢になっています。修正され始めている。生まれたときではなくてとなっている。もう一つ今まで３月生まれと４月生まれを一緒にしていたので当然、１年違う。食べる量も違うのに〇才だからとしていて非常にきつい。研究では管理職になる率低いし、自明が短いと研究されている。身の回りを見てリーダーシップを取っているのは４月生まれ。１年早いのは得。特に今年の最初に３月生まれは自殺のリスクが高い。国は年齢別を見直し始めている。個人発達を見ようとしている。明治の初めにプレスクールは小学校に入る前の年に創られた。保育内容はフレーベルを取り入れようとお弟子さんを園長に据えるが学校のプレスクールですから園舎は校舎のように園庭はフレーベルはもともと条件がある。起伏があること草木があること、菜園があること砂場があることがフレーベルが提案している園庭だが、お茶代付属もそういうものを作ろうとしたが政府から止められ園庭は起伏はやめて草木は抜きなさい、筋力トレーニングの危惧を並べなさいと軍事共励のための園庭です。私が園に入った時には最低基準の中に園庭に置く遊具が決められていました。領域も小学校は教科で教える。教科で教える準備段階として領域を作った。音楽の就学前として音楽リズム、図工の就学前として絵画制作と領域を小学校の教科として教える内容でした。そのために絵画制作のために遠足のあとは遠足の絵を描きましょう、運動会のあとは運動会の絵を描きましょうということがあった。それも領域は今回はそういうものではなくて、乳幼児期は教える場所ではなくて発達を遂げさせる場所で、何のために音楽をさせるか、何のために絵を描かせるか、これは子どもの表現の発達をさせるためにするのだと音楽時ズムと絵画制作を一緒にして表現という領域にした。最初は６領域だったのが５領域にして、領域の考え方が、教える内容から子どもの発達を見る切り口ということで、５つの観点から子どもの発達を見ていきましょうと領域を作ります。領域がいっぱいあると見にくいから、10 個に取りあげたのが 10 の姿。10 の姿も卒園するまでのノルマではなくて、０からの発達を見るための切り口として見ていかないといけない。最初はプレスクールからはじまり、年長から次第に２年保育と言って、４歳、３年保育と言って３歳から年齢別になった。フレーベルはもともと異年齢だったが、日本は小学校のプレとして始まり、お茶代付属が出来て、新宿で言うとお茶代付属を通う途中に四谷を通ってお茶代付属の裕福なところに行っていたが、貧民街はどうなるのか。親にも見てもらえない、この子たちはかわいそう、何とかしなきゃと作った保育園。保育園は救済措置、親が見れない代わりに見よう。ですから、お母さんの代わりにしようと最初は保母さんと言っていた。救済措置なので厚生省の管轄になった。福祉ということで、幼稚園は小学校のプレなので文科省。保育園は救済措置ということで、変わりに見る保母さんとなった。各地でも保育園が出来るのは、女工さん等働いている間見れない代わりに見るということで、保育園が出来て、保育園と幼稚園の成り立ちが分かれた。しかし、子ども集団がなくなってきている今は、　家庭は今は母子で、学校の代

わりでもプレでもなく、脳の機能もそうだが、乳幼児期にしか育たないものが見つかってきた。小学校のものでも、家庭のものでもなく、乳幼児教育の場であるものが本来こども園。乳幼児期としてどうあるべきか、そのためには親が働いていようが、いなくても関係なく作られたのが、子ども園だが、文科省が引っ張り上げてしまい、日本はどんどん遅れてきている。そして、保育園では家庭の代わりを未だにやっていて、担当性をそのまま残っている。だったら家庭に戻した方がいいでしょと言うと、家庭に戻してしまう。子ども集団があるから保育園はいいのに、

―中国での保育事情―

一人ひとりがよくて大失敗しているのが中国の一人っ子政策。過干渉によって我慢出来ず、社会に適応できない若者が増えて焦り、中国でふたりっ子政策になっている。ふたりっ子になってどうしていいか分からなくなってきている。そういうようなことがあって、現在中国で法律が改正された。私として日本は大丈夫かと思うことがあって、中国の幼児教育法が打ち出された。2010 年に 2020 年を目指して作られたことの一環の一つは、幼児教育の早期教育の禁止。先取り教育はやってはダメと出された。私はよく話すことだが、私の園で今年の 3 月に卒園した子にお茶代付属小学校に 2 人入学した。7 月にうちの園に遊びに来てその保護者に「小学校はどうですか？」と聞いたら、「1 学期は、ブロックをしたりして、遊んでいるだけです」と言っていた。小学校の授業が始まったのは、幼児期に十分に遊んだ子じゃないと学力が上がらないので、もう一度十分遊び込ませていますと言われた。実はその研究を中国は知っている。十分遊び込むことが、小学校へ行って成績が上がる。早く教えれば早くなるだろうというのは違う。ブラウンという人が、ある研究で若者が射殺事件を起こした。テキサス大学にいたブラウン博士に研究して欲しいと依頼を受けた。テキサス州に殺人を起こした 23 人の共通点を調べたら 2 つあった。一つは小さい頃から虐待を受けていた。もう一つは自由遊びをしたことがないことがわかった。どっちが大きな原因かをアメリカ全土 6000 人の犯罪者を調べたところ、小さい頃に自由遊びをしたことがない。自由遊びの大切さがあるにもかかわらず、ルールのない大人の指導がない遊びのことで、これが年々減ってきている。幼稚園ではカリキュラム通り遊び、課外教室で遊んでいる。昔は幼稚園で教わってきても、家に帰るとルールのない遊びをしていたが、塾に行ったり、課外に行ったりして、自由遊びは減ってきているということで、世界中で自由遊びを取り戻そうとしている。自由遊びの大切さが見直され始めている。日本でも減って来ていて、監査が来ると「ねらいを立てなさい」と指導する。私の園でねらいがないと指摘を受けて、うちの職員は反論した。「散歩もねらいを立てるわけではなくて、子どもが見つけたものを膨らませる」と言ったが駄目と言われた。ベテランがねらいは、この子にはこういうねらいを持とう、個人によってねらいを持っているのに、クラスにとって持つのはおかしいと言われた。給食もねらいを立てるが、一人一人違う。自由遊びが年々減ってきている。中国では何パーセント自由遊びをしなさいと決められている。世界の研究を中国は調べているが小学化の禁止。もう一つは、中国では幼児教育は教育なので、上場している会社がすることはすべて禁止され、公営化されている。投資の対象にしてはいけないと決められている。3 つ目は保育士の虐待禁止。その中で決められたのが虐待が多い理由は、保育士の資質があるから研修は大事だが、保護者のプレッシャーの要求と管理職の要求から虐待してしまうことがあり、見学前に話したように、どうしてこの保育なのかの話すことが決まっている。4 つ目は保育の質を高めるための監査、評価が政策上決められた。その中で日本はこれで大丈夫なのか心配してしまう。中国でそれらの理由で「見守る保育」が中国で急激に広がろうとしている。一人っ子政策のために、自己中心的で自立できていない子が増えて来ている。私たちの保育は自立を目指している保育。もう一つは乳児保育の充実。日本は育休を増やそうとして、乳児保育を減らそうとしている。でも働いているから保育園を作る意識が強いが、中国では今までなんでなかったかというと、おじいちゃん、おばあちゃんが見ていたが、働いている女性は問題

ない。おじいちゃん、おばあちゃんが見てしまうとか、干渉になるので、引き離して専門性のある中で保育をするべきと乳児保育が充実してきている。祖父母の丁寧過ぎるところからヨーロッパのカリキュラムがやってあげる、アメリカで保育者がどう関わるかという研究は多いが、子ども同士の研究の関わりが少ない。そういうことに経験上、丁寧にし過ぎるのは問題だと見守る保育に変えていきましょうということが起きてきた。子どもが自分でやれるようになるのと子ども同士の関係。食の面でも昔の共食の食べる意味ですね。

―最後に―

今年のテーマは表現力だが、今年取り組んでいるのは、的確にどこの場所はどう痛いのか、表現できるようにしている。自分でどこがどう痛いのか。どの場所が痛いのかということです。胃が悪いとか言えるか分からないが、ドイツのサイエンスゾーンに人体模型があるが、それは自分の身体を言う時に、胃とか腸はドイツ語でいう機会が無いので、その言葉を覚えさせるために使っている。普段使われない言葉を覚えさせている。胃や肺、どこが痛いのかを言える子にしようとしている。それは何も話す力人が居ないとだめ。これが親子だと察してしまう。キチン言える力をつけようとしている。　中国やシンガポールで広がっているのは、子どもが自立すること、２つ目が子ども同士の関わりから社会を学んでいる。保健の面からどうか、用務の面から言うとどうかを意見交換や話し合いをしてもらえたらと思っています。全体の話は以上ですが、ディスカッションの時に聞いてもらえると私が話す時間にしたいと思います。この後は懇意にしているシェフの色々な話を聞いて、何でこの世界に入ったかを聞いた時に参考になると思うので、その話をお願いした。明日、レストランで作ったお弁当を食べることになっています。自然食のお弁当があるので楽しみにしてもらって、明日食べて感想を聞かせてもらえたらと思います。私の話は以上ですお疲れ様でした。ありがとうございました。

本稿は、2019 年 10 月 7 日に行われた職域別見守る保育セミナーの講演内容をまとめたものです。

（文責/奥山卓矢）

caguya
〒161-0023
東京都新宿区西新宿 3-2-11　新宿三井ビルディング 2 号館 10 階
Tel:03-5909-7155
毎週月曜日に配信しています。
ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ　奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン
メールマガジンのご登録は、
ＱＲコードからお願いします。